



m I R a I 通信

～輝く「未来」の中に「伊里」はある～



小中一貫英語の授業が取材されました

毎週火曜日は、小中一貫教育の一環として、本校の三宅先生が伊里小学校に赴き、小学校の先生、ALTのジェーン先生と共に英語の授業を行っています。

今回、毎日新聞が、その様子取材したいと伊里小学校に来校されました。

そうと聞いてはジツとしたいられるわけがありません(苦笑)。さっそく取材に行ってきました。校長先生、英語科主任の川根先生も参観です。

小学校2年生の授業でした。クリスマスにちなんだ物の名前を英語で言っていきます。「クリスマスツリー」「サンタクロース」「ストッキング」「エルフ」…なかなかどうして本格的な発音じゃないですか。元気もよろしい。

そしてペアで、全体でカードを使ったゲームを楽しみながら行っていました。

小さな頃からこのように英語に親しんでいくと、中学生になった時が楽しみですね。



Hands on your head



輪になって Listen!



おしくらまんじゅう状態です



避難訓練は忘れた頃にやってくる



「災害は忘れた頃にやってくる」とばかりに、突然の事前連絡なしの避難訓練を行いました。生徒だけでなく、授業をされている先生方にもほとんど知らせておらず、まさに「寝耳に水」状態での訓練となりました。さてどうなるのか?心配ばかり

りが先立っていましたが、いざ行ってみると大変スムーズな避難ができました。緊急避難速報が流れた瞬間に机の下に入った生徒も多かったようで、今までの訓練が十分に生かされているようでした。これはすばらしい!階段から降りて来る様子を見ていましたが、焦るでもなく走るでもなくしゃべるでもなく、整然と流れるように行動できていました。

事前予告がなかったとはいえ、やはり訓練は訓練です。これで安心することなく、「イザ」という時の行動は、頭の中でシミュレーションしていきたいですね。



エッセイリストは太陽のように



こども園の幼児+中学3年生=嬉しい♪楽しい♪

少し前になりますが・・・11月28日、3年生が幼児とのふれあい学習のためこども園に行ってきました。班ごとに幼児の発達段階を考えて作ったおもちゃを持って行き、一緒に遊びながら関わり方を学習するという家庭科の授業のメインイベントです。

まずは、こども園のうみ組（5歳児）とそら組（4歳児）の園児と中学生との「おはようございます！」のあいさつから交流がスタート。園児の元気のいいあいさつは中学生を圧倒していました。そしてA組はうみ組と、B組はそら組の園児と、作ったおもちゃで遊んでもらい（ちなみにおもちゃはボーリング、魚釣り、ストライクアウト、的当て、輪投げなど）園庭でもいろいろな遊びを一緒にして、園児たちは大喜び。中学生のコミュニケーション力は素晴らしい！！遊んでもらって（？）中学生もとても嬉しそうでしたよ（笑）

再び一同が集まって、中学生がけん玉、こま、縄跳び、合唱を披露。園児たちは「いろんなことができるお兄さんお姉さんはスゴイ！！」とキラキラしたまなざしで中学生を見つめていました。最後に中学生が付けていた自作の名札を園児に



あげて、お別れです。お互いに何度も何度も「バイバイ」と手を振り合いながら、こども園を後にしました。この学習には、無邪気で感情をストレートに出す幼児に対しては自分たちが合わせて対応すること、常に幼児の行動に目を配ること、笑顔で接することに気を付けて臨みました。そしてこの学習を通して、様々な人がいる中、一人一人を理解して対応する。自分より弱い人たちを守りたいし、頼られる人になりたい。などの気持ちが芽生えたようです。自分が親になった時には自分の子どもってこんな感じなのかな～と将来を想像した人も。この学習のたびに、3年生の成長に触れ、子ども達を支えるご家族の愛情と地域の皆さんの温かさを感じて（おもちゃ製作途中の不安もすっかり忘れて）心がほっこり幸せな気持ちになる岸なのでした。

こども園の園児の皆さん、先生方、今回もありがとうございました！！

岸 祥子

「元気よいあいさつで職場に入ってくる全国大会」があれば、限りなく優勝に近い位置にいるであろう家庭科の岸先生です。その元気よさ、明るさ、大らかさは、太陽のようで、職員室でも一際輝いています。そんな先生ですから、自然生徒も周りに集まって来て、まさしく「恒星を従えた太陽」と言えるでしょう。そんな岸先生に、「幼児ふれあい学習」をネタにエッセイリストをお願いしました。「ときめきなび」の挿し絵も担当するイラストレーターでもあります。

どの学校でもそうでしたが、幼児とふれあう時の中学生の顔は本当に穏やかです。慈愛に満ちています。「守らなければいけない小さな生命」を前にして、その責任感が表に出てくるのでしょうか。

とつてもヤンチャをしていた男の子が、抱っこした幼児が寝てしまうと、「動いたらこの子が起きるから」と、ずっとその姿勢でいた姿を今でも思い出します。普段はジッとすることがなかったのに。

「守られてきた」側から「守る」側へ。それは大きな責任を伴うものです。「守る力」を得るまでに成長してきた中学生のみなさん。その力を、どうか広く大きく使っていける人であってください。

今年は見に行けなくて本当に残念でした。みんな「良い顔」してたんだろうなあ。